

## 受賞にあたって

谷口真理子

この度は栄誉ある第一回日本筋学会奨励賞をいただき、大会長をはじめ学会長、審査員、担当の方々、共同研究者の先生方、実験補助の方々に心よりお礼申し上げます。

私は幼少期から漠然と「将来病気を治す薬を作って人の役に立ちたい」と思っていました。医師になり福山型筋ジストロフィーの患者さんやご家族との出会いがきっかけで研究がスタートしました。その後、当時大阪大学教授、戸田達史先生（現在・東大・神経内科教授）のご指導により分子遺伝学の研究を始めました。その後研究の場が神戸大学に移り、小児科の松尾雅文先生や飯島一誠先生、竹島泰弘先生のご厚意により神戸大学小児科に入局でき、基礎研究を継続しながら臨床も続けられるという、最高の環境をご提供くださり感謝しております。大学院時代には国立精神神経研究センターの西野一三先生や埜中郁哉先生にご指導を賜れたことも大きな財産です。



研究は思い通りにならない結果だらけでしたが、自分が研究室に寝袋を持ち込み、放射能に汚染されそうになり、劇薬を吸入しそうになりながらも得た研究成果から、核酸治療薬の候補ができたことは本当に幸運でした。ただ裏を返すと、それくらい努力しないと所詮結果を出すのは無理だったのだらうと感じます。他の優秀な先生方ならもっと簡単に成しえたことでしょう。私には素晴らしい指導者達やアドバイスを下さる優秀な先生方が周囲に沢山おられたことが幸運のカギだったと思っています。念願の核酸医薬の first in human 試験が昨年からはじめ、私はその成功を遠くから祈るだけですが、核酸医薬以外の治療法開発にも力を注いでゆきたいと思います。遺伝医療に携わる者として、難病の患者さん達が少しでも暮らしやすい環境になるよう微力ながらも貢献できたらと考えています。

さいごに、“若い方へのお言葉”ということですが、私のようなものの言葉なんて甚だおこがましいと感じております。むしろ既に若い先生方から能力不足といわれているのではないかと案じております。ただ、年をとっても「新しいことに挑戦するリサーチマインド」だけはこれからも持ち続けたいです。どうか今後とも温かい目で、突撃おばさんにご指導を賜りますとありがたいです。最後に、生活の中心が研究となり四六時中私に振り回されている夫と息子や、研究を支えてくれている池田チームのメンバーにも一言感謝の言葉を述べたいと思います。